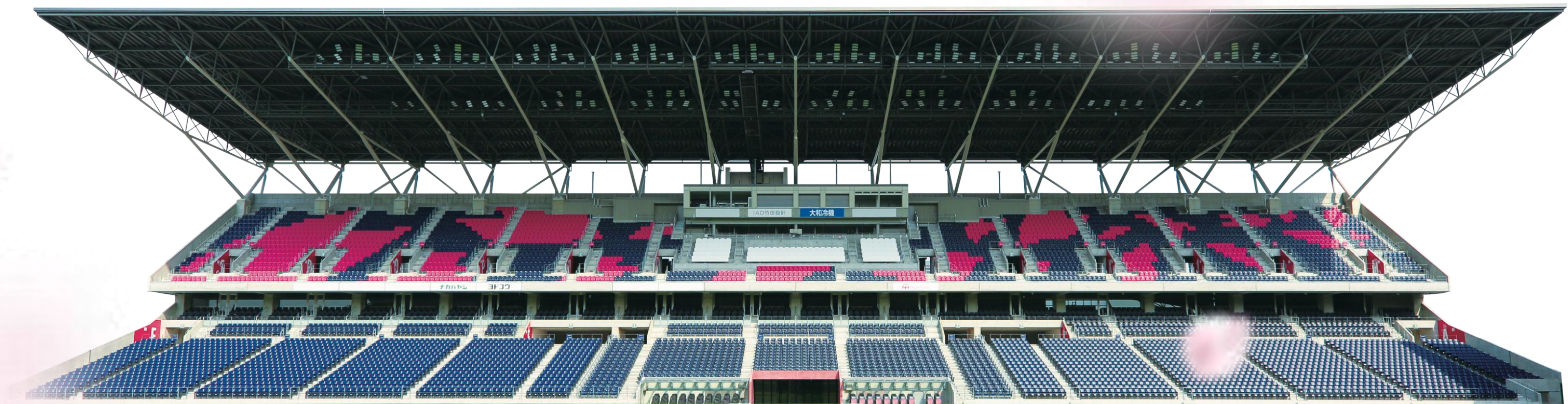




**Cerezo**  
OSAKA

# IMPACT REPORT 2025



# アジェンダ

## 00. イントロダクション

1. 日置社長メッセージ	01
2. 本レポートの作成背景・前提	02
3. 1分でわかるセレッソ大阪の取り組み	03 - 04

## 01. セレッソ大阪の考えるサステナビリティ

1. セレッソ大阪とは	06
2. クラブ理念とスローガン	07
3. セレッソ大阪の“サステナビリティ”の歩み	08
4. セレッソ大阪のサステナビリティポリシー	09
5. セレッソ大阪の目指す姿とその実現に向けたストーリー	10

## 02. ミッション実現のためのロードマップ

1. セレッソ大阪の注力する5つのサステナビリティ重点課題	12
2. 各テーマのロードマップ	13 - 17

## 03. 各テーマにおける取り組み事例とインパクト

1. 「環境」の取り組み事例・インパクト	19 - 32
2. 「健康・福祉」の取り組み事例・インパクト	33 - 37
3. 「教育」の取り組み事例・インパクト	38 - 43
4. 「地域活性」の取り組み事例・インパクト	44 - 47
5. 「DE&I」の取り組み事例・インパクト	48 - 52
6. セレッソ大阪が取り組む活動の社会的価値（SROI）	53 - 56

## 04. サステナビリティパートナーと描く未来

1. ヤンマー特別インタビュー	58 - 59
-----------------	---------

## 05. 振り返りと今後の展望

1. 2025シーズンの振り返り、新シーズンへの展望 森島会長メッセージ	61
2. セレッソ大阪とともにサステナビリティを推進するSDGsパートナー	62

# イントロダクション

## セレッソ大阪代表取締役社長 日置 貴之メッセージ

～ 社会環境の変化に対して、セレッソ大阪ができること ～

1995年のJリーグ参戦以来、セレッソ大阪は大阪の街とともに歩んできました。

スタジアムに集うファン・サポーターをはじめ、地域の皆さま・パートナー企業・自治体など、多くの関係性の中で、クラブは単なるスポーツチームを超えた社会的な役割を担うようになっていきます。その歩みの中で育まれた絆は、学校との連携、地域イベントへの参画など、日常の暮らしに寄り添う活動にも広がっています。クラブが地域社会に果たす役割は、スポーツの力を通じて人と人をつなぎ、共感と連帯を生み出すものへと深化してきたといえるでしょう。

一方で、私たちを取り巻く社会環境は、大きな変化の渦中にあります。

少子高齢化や人口減少は、サッカーを支える人材やファンの維持に直結する重要な課題です。

多様性の尊重、気候変動への対応、環境負荷の低減といったテーマは、スポーツ界においても避けて通ることのできない責任となっています。こうした社会的な変化に対して、セレッソ大阪がどう向き合い、どのような価値を提供していくのか——今まさにその姿勢と行動が問われています。クラブとしての存在意義を再定義し、地域社会とともに未来を描くための挑戦が始まっているのです。

こうした社会・環境の変化に対応するため、セレッソ大阪は2024年8月に「サステナビリティグループ」を新設しました。

また、2025年2月にはクラブとして優先すべき5つの注カテーマの方向性を明確にするため、クラブのサステナビリティポリシー“SAKURA SUSTAINABILITY”を策定しています。本レポートでは、こうした私たちの活動の一端をご紹介します。

私たちは、サッカーの持つ力を信じています。人と人をつなぎ、社会にポジティブな影響をもたらすことこそが、セレッソ大阪が未来に果たすべき責務であると信じ、これからもクラブを運営していきます。



# 本レポートについて

## 背景

近年、社会や地域に対するスポーツクラブの責任と期待はますます高まっています。セレッソ大阪も、クラブとしての存在価値を「競技の成果」ととどまらず、「地域や社会との共創によるインパクト」として示す必要性を強く感じてきました。これまでは、私たちの活動を振り返り、体系的に発信する仕組みが整っていませんでしたが、インパクトレポートを1つのキッカケに取り組みの意図・成果を発信していきます。

## 狙い・目的

本レポートはホームタウン活動・サステナビリティパートナーとの共創事例など、社会的な取り組みをご紹介します。これまで実施した活動を5つのテーマ別に体系的に整理し、数値や事例を交えながら、その意義や成果を分かりやすく示しました。さらに、クラブの長期的なビジョンと施策のつながりを明らかにすることで、今後の方向性や挑戦を共有し、クラブを支える皆さまと未来を共に描いていくことを目指しています。

## スコープ（対象期間・内容）

対象期間は2025年度（2025年1月～2025年12月）ですが、それ以前より継続的に取り組んでいる施策についても一部ご紹介をしています。対象テーマはセレッソが注力する「環境」「健康・福祉」「教育」「地域活性」「DE&I」の5つのテーマ（マテリアリティ）です。施策の影響範囲（施設やステークホルダー）は3章で詳細を説明しています。

## 活用方法～共創の輪を広げるきっかけとして～

本レポートは、ファン・サポーターの皆さまにはクラブの社会的価値をより深く知っていただくために、パートナー企業や自治体の皆さまには、共に進めてきた取り組みの成果を共有し、将来に向けた共創の可能性を広げるためにご活用いただきたいと考えています。さらに、クラブスタッフ/業界関係者/それ以外のすべての方にセレッソ大阪の活動の意味を理解いただき、さらなる活動の進展・共創が花咲く契機となることを期待しています。

# 1分でわかるセレッソ大阪の取り組み 1/2

## サステナビリティ活動の歩み

セレッソ大阪は、2012年に始めた「CO<sub>2</sub>ゼロチャレンジ」を皮切りに、地域・環境・教育など多面的なサステナビリティ活動を着実に積み重ねてきました。2024年にはサステナビリティグループを設立し、続く2025年にはクラブが社会・地域に対して、5つの注力テーマごとにどのような価値を提供していくかを示した「SAKURA SUSTAINABILITY」を策定しました。

**CEREZO OSAKA  
SAKURA SUSTAINABILITY**  
Supported by **YANMAR**

「未来の子どもたちにもサッカーができる社会・環境を残したい」という思いから、「環境」「健康・福祉」「教育」「地域活性」「DE&I」の分野を重点課題として、事業を通じたサステナビリティ活動により注力してまいります。

サステナビリティのフィールドでも世界に咲き誇るクラブとなるべく、セレッソファミリーの皆様と共にサステナブルな社会の実現を目指したアクションを推進していきます。

## ミッション実現のためのロードマップ

「SAKURA SUSTAINABILITY」で示したクラブの目指す姿を実現するため、セレッソ大阪は、短期・中期・長期3フェーズに分けて、各テーマ毎にあるべき姿を策定しました。

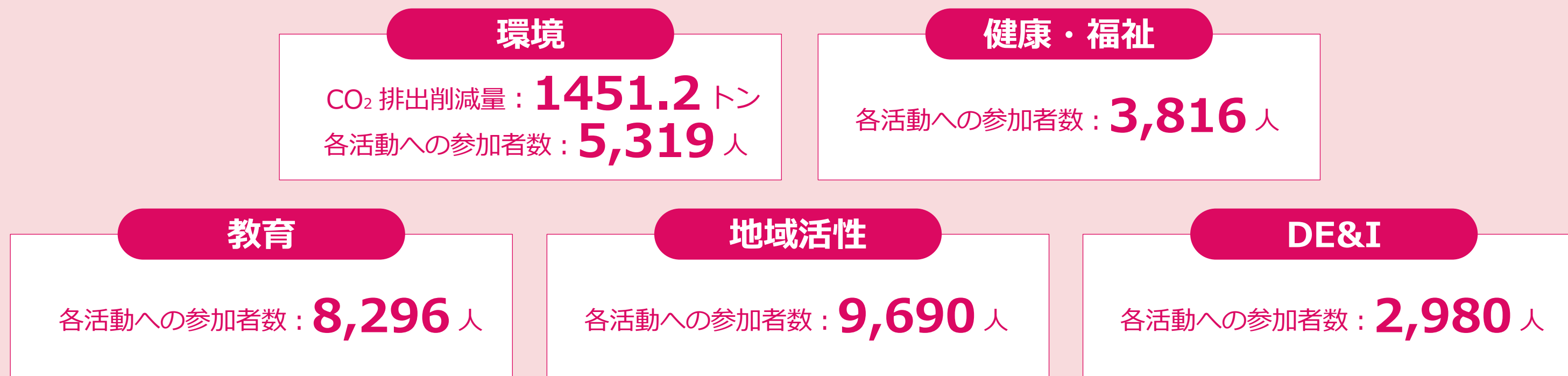
クラブがどのような価値を未来に届けたいのか、その実現までのステップを明確に示しています。この道筋のもと、パートナー企業や行政、ファン・サポーターを始めとする様々ステークホルダーとともに、持続可能な未来の創出に向けて、より一貫性をもって推進していきます。



# 1分でわかるセレッソ大阪の取り組み 2/2

## 5つのテーマのインパクト

2025年、サステナビリティポリシー「SAKURA SUSTAINABILITY」で掲げた「環境」「健康・福祉」「教育」「地域活性」「DE&I」の5つの重点テーマに基づき、社会的価値創出に向けた活動を39件推進しました。各テーマごとにの成果をまとめた内容・結果がこちらです。



## 振り返りと今後の展望

2025シーズンは地域との関わりや社会的価値創出の幅を大きく広げる一年となりました。

近年クラブの想いに共感し、ともに活動を推進するパートナー企業や行政、教育機関の数は増加の一途をたどっています。それに伴い私たちのアクティビティに参加する関係者人口の数は増え、共創の輪は着実に広がりを見せています。2026年からはJリーグでもSPL（※）の開始が決定し、これまで以上に活動の輪が広がっていくと考えます。

※SPL (Spots Positive League) : クラブの気候アクションを数値化し、その進捗や目指すべき方向性を一目で把握できる仕組み

# 01 | セレッソ大阪の考えるサステナビリティ

## セレッソ大阪とは

セレッソ大阪。

大阪を象徴する「桜（CEREZO）」の名を冠し、地域社会と共に歩むプロサッカークラブである。私たちはミッションは、スポーツが持つ力を信じ、人々に夢・希望・感動を提供し続けることだ。

桜が寒い冬を耐え、根を張り春に花を咲かすように、私たちも育成型クラブとして世界へ通じる才能の種を輩出し続ける。アカデミーからトップチームへ、そして世界へ。この循環を止めることなく、個の輝きを組織の力へと昇華させることが、我々の誇りそのものである。

大阪のシンボルとして、アジア、そして世界に咲き誇るクラブになる。最高にワクワクするエンターテインメントを提供するクラブになる。スポーツとその関連領域を牽引する育成型クラブになる。

SAKURA SPECTACLEのスローガンをもとに、常に「セレッソらしく」あることを誇りに、私たちはこれからも進化し続ける。

イング マ ッ チ



明治安田

サホ

マ ッ チ

## クラブ理念とスローガン

### クラブ理念

#### MISSION

##### 企業使命

サッカーを核とする事業を展開し、  
夢・希望・感動にあふれた  
スポーツ文化の振興と  
地域社会の発展に貢献する。

#### VISION

##### 目指す姿

大阪のシンボルとして、アジア、  
そして世界に咲き誇るクラブになる。  
最高にワクワクするエンターテインメントを  
提供するクラブになる。  
スポーツとその関連領域を  
牽引する育成型クラブになる。

#### PRINCIPLE

##### 行動指針・価値観

- 1.セレッソファミリーの心を動かし、自分自身も楽しめ。
- 2.仲間と共に、高い目標にチャレンジせよ。
- 3.結果を出すことに執念を持て。
- 4.常識にとらわれず、新しいものを創造せよ
- 5.世界で勝てるスピードで実現せよ。
- 6.自分を磨き続けよ。
- 7.謙虚に、感謝の気持ちを持って、正しい道を進め。
- 8.セレッソの一員である誇りを持ち、次世代へつなげ。

### クラブスローガン

# SAKURA SPECTACLE

閃け。輝け。咲き誇れ。

我々は、闘う。我々は、走る。我々は、魅せる。我々は、驚かせる。我々は、信じる。

我々は、立ち上がる。我々は、夢を咲かす。我々は、今この瞬間もサポーターとともにある。我々は、セレッソ大阪

# セレッソ大阪の“サステナビリティ”の歩み

1957年		・ クラブの前身となるヤンマーディーゼルサッカー部の創設
1993年		・ 大阪サッカークラブ株式会社の設立と、チーム名を「セレッソ大阪」に変更
1994年		・ Jリーグへ加盟
2014年		・ CO <sub>2</sub> ゼロチャレンジが第3回カーボン・オフセット大賞の「経済産業大臣賞」を受賞
2022年		・ 読書推進プロジェクトが「令和4年度子供の読書活動優秀実践団体文部科学大臣表彰」を受賞
2023年		・ クラブ設立30周年を迎える
2024年		・ 「SDGsパートナー」という新たなパートナーカテゴリーを新設 ・ サステナビリティ活動を推進する組織として、Jリーグ初となるサステナビリティグループを新設
2025年		・ クラブ全体のサステナビリティにおける取り組み方針である“SAKURA SUSTAINABILITY”を策定 ・ ヤンマーが“サステナビリティパートナー”へ就任

## パートナー企業との主な取り組み ※パートナー企業は 2025年12月時点

 <b>CO<sub>2</sub> ZERO CHALLENGE</b> CO <sub>2</sub> ゼロチャレンジ 大阪ガス株式会社、ヤンマーエネルギーシステム株式会社（2012年～）	 <b>Bottle To Bottle</b> Bottle to Bottle プロジェクト キリンビバレッジ株式会社（2024年～）
 <b>読書推進プロジェクト</b> 株式会社ダイレクトマーケティングミックス、東洋シール株式会社、株式会社ヘソプロダクション、読売新聞社（2019年～）	 <b>FOOD COUNTER</b> 日本ハム株式会社（2025年～）
 <b>BLOOM SMILE</b> 発達に課題のある子ども向けサッカー教室 塩野義製薬株式会社、株式会社 Any Kids Place（2023年-） ※2025年よりBLOOM SMILEプロジェクトへ名称を変更	 <b>「地域活性化」に貢献する取り組み</b> UR 都市機構（2025年～）

積み重ねてきた歴史と、地域・企業との共創の力で、これからも未来に向け持続可能なインパクトを生み出し続けます

# セレッソ大阪のサステナビリティポリシー



## CEREZO OSAKA SAKURA SUSTAINABILITY

Supported by  **YANMAR**

「未来の子どもたちにもサッカーができる社会・環境を残したい」という思いから、  
「環境」「健康・福祉」「教育」「地域活性」「DE&I」の分野を重点課題として、  
事業を通じたサステナビリティ活動により注力してまいります。

サステナビリティのフィールドでも世界に咲き誇れるクラブとなるべく、  
セレッソファミリーの皆様と共にサステナブルな社会の実現を目指したアクションを推進していきます。

# セレッソ大阪の目指す姿と実現に向けたストーリー

セレッソ大阪は5つの重点課題について、Phase1・2・3の段階を通じて取り組みを進化させていく考え方のもと、活動を推進しています。

ホームタウンを起点に、大阪、日本へと取り組みを波及させながら、最終的にはサステナビリティのフィールドで世界に咲き誇るクラブになることを目指しています。以下の概念図は、そのストーリーを整理したものです



# 02 | ミッション実現のための ロードマップ



## セレッソ大阪のサステナビリティ重点課題

セレッソ大阪は5つの注カテーマ（マテリアリティ）について、取り組みの方針を以下のように定義しました。次項では5つの注カテーマごとに、方針を実現するための施策・具体的な成果・中長期のビジョンを整理しています。

### ① 環境

セレッソ大阪は、クラブ活動による環境負荷を抑え、2040年までにカーボンニュートラルを達成します



### ② 健康・福祉

セレッソ大阪は、スポーツを通じて、すべての世代の健康づくりに寄与し、心身の成長を支えます



### ③ 教育

セレッソ大阪は、未来を担う次世代の人材育成に貢献します



### ④ 地域活性

セレッソ大阪は、地域の魅力を高め、人々が集まり・つながることで、地域の活性化に貢献します



### ⑤ DE&I

セレッソ大阪は、あらゆる人が尊重され、互いに支え合う共生社会の実現に貢献します



# I. 環境 ロードマップ



## 活動/施策 2025

### CO<sub>2</sub>排出量の削減

- 再生可能エネルギーの利用
- CO<sub>2</sub>ゼロチャレンジ
- 環境負荷の少ない移動手段
- Bottle to Bottle プロジェクト

### 環境活動の推進・学習

- Lead to Ocean (LTO) 活動
- 「セレッソの森」植樹プロジェクト
- 堺クビアカ防除大作戦
- サステナ研修の受講/検定の受験

### ゴミの削減

- YANMARバイオコンポスター
- フードドライブ

### スタグルの低炭素食品導入

- セレッソバールのサステナブル化
- ラウンジでの大阪産（もん）の導入

## 成果-アウトカム 2025

CO<sub>2</sub>の削減量：**1451.2t**

長居/舞洲での自家発電・再エネ利用に加え、パートナー企業さまたちとの環境活動を実施したことにより、大幅なCO<sub>2</sub>排出量削減を実現しました。

活動参加人数：**5,364人**

様々な種類の環境活動を実施したことで、延べ参加人数が5,000人を超えました。これを1つのベンチマークとして、SPL（※）が始まる2026年はより取り組みを加速させ、関係者の数を増やしていきます。

## 中期/長期の目標 2027-31

### 脱炭素活動の仕組みづくり

さらなるCO<sub>2</sub>排出量削減の取り組みに挑戦し、セレッソ×行政×企業での脱炭素活動の仕組み、サーキュラーエコノミーモデルが確立・推進され、クリーンな街（モデル都市）として認識されている

### Jクラブのロールモデルへ

継続的に取り組みを推進し、Jリーグにおける脱炭素推進の最先端となり、1つのロールモデルとなっている

※SPL (Spots Positive League) : クラブの気候アクションを数値化し、その進捗や目指すべき方向性を一目で把握できる仕組み

## II. 健康・福祉 ロードマップ



### 活動/施策 2025

#### サッカー教室の開催

- サッカー教室
- ボール寄贈・運動教室
- レディースサッカークリニック
- ウォーキングフットボール体験会

#### 未来を担う子どもへの支援

- FOOD COUNTER
- 選手企画シート

#### 高齢者福祉への取り組み

- Be Supporters !

### 成果-アウトカム 2025

教室参加人数 : **3,203**人

セレッソ大阪が関わるサッカー教室・クリニックへの参加者を増やすことで、府民の心身の成長に貢献しました。

活動参加人数 : **613**人

日常生活では支えられる立場にある高齢者が、“支える側”としてクラブと関わる機会を創出し、社会とのつながり・役割意識・心身の健康維持・生きがいづくりに寄与しました。

### 中期/長期の目標 2027-31

#### 府民の心身の成長への貢献

企業・行政と連携した取り組みにより、府内のあらゆる人が、セレッソ大阪の取り組み参加することで、心身の成長につながっている

#### 生き生きとした人を増やす

府内のあらゆる人の幸福度が向上し、生き生きと活躍する人が増える街×クラブ、と認識されている

## Ⅲ. 教育 ロードマップ



### 活動/施策 2025

#### 小中学校への教育活動

- ・ HANASAKA授業
- ・ 読書推進プロジェクト

#### 地域への教育・啓蒙活動

- ・ Jリーグ新人研修
- ・ 交通安全教室
- ・ 地域学生のインターン活動

### 成果-アウトカム 2025

活動参加人数：8,296人

夢を持つことの重要性、地域での防犯活動、サッカークラブでフロントの一員としての実務の理解を深めるなど、多様な学習機会を提供しました。来期以降はセレッソ大阪が提供した学習機会をさらに増やすことで、参加者人数の総数を増やします。

### 中期/長期の目標 2027-31

#### クラブ活動を通じた教育貢献

府内全域の子どもたちに対して、クラブを活用した教育プログラムを企業・行政と連携し提供することで、人材育成に寄与している

#### セレッソ型育成モデルの普及

クラブ教育による人材育成が1つのロールモデルとなり、子供の未来を創造する街×クラブ、と認識されている

## IV. 地域活性 ロードマップ



### 活動/施策 2025

#### 地域・こどもへの教育活動

- ・ ランドセルカバープロジェクト
- ・ 団地を起点とした賑わい創出

#### 地域のにぎわい創出

- ・ 応援day
- ・ 地域イベントへの参加
- ・ セレフェスの開催

### 成果-アウトカム 2025

活動の参加人数：**9,690人**

セレッソ大阪が関わったイベントへ多くの方にお越しをいただきました。興行だけでなく、地域の方に楽しんでいただけるコンテンツ・体験にも力を入れて、地域の賑わい創出に貢献しています。

関わったイベント数：**69回**

近隣自治体の広報活動や、長居公園で開催した盆踊りイベント・興行の目玉企画セレフェスなど、地域の魅力を伝えつつ近隣の方々に楽しんでいただける体験を創出しました。

### 中期/長期の目標 2027-31

#### 府のクラブ関係者人口の増加

企業・行政と連携し、府内全域で住民同士の交流機会を創出し、地域経済活性化に貢献している

#### 大阪地域全体の活性化

大阪への愛着や関心が高まり、大阪の居住者が増え、さまざま人が集まり・交流することで、地域の活性化に貢献している。

## V. DE&I ロードマップ



### 活動/施策 2025

#### 多様性の理解

- BLOOM SMILE PROJECT
- はなプラス
- 外国にルーツを持つ子供へのサッカー教室
- 多様な観戦体験
- インクルーシブフェスタ

#### DE&Iの教育活動

- DE&I講義

### 成果-アウトカム 2025

活動参加人数：**2,981**人

どのようなバックグラウンドをお持ちの方でも試合観戦がしやすい環境づくりによって、様々な方に試合を楽しんで観戦いただきました。また、観戦だけでなくサッカーを通じた異文化交流の体験も提供し、活動が記事に特集されました。

多様な観戦スタイル：**5**通り

車いすご利用の方、乳幼児をお連れの方、騒音が苦手な方、外国の方など、それぞれの方の特性に合わせた観戦体験がご用意できるよう、設備面だけでなく新しい体験提供を実施しました。

### 中期/長期の目標 2027-31

#### 住みやすい街づくり

行政や企業と連携し、府内のあらゆる人が尊重され、住みやすい街づくりに寄与する取り組みを実施している

#### 互いを支えあう社会へ

あらゆる人が尊重され、お互いに支え合う共生社会の実現に貢献し、住みやすい街×クラブとして認識される。



# 03 | 各テーマにおける 取り組み事例とインパクト

# 「環境」における取り組み事例・インパクト

## 2025シーズンの振り返り

「環境」のテーマは、セレッソ大阪がこれまでも注力してきた重要なテーマの一つです。近年、Jリーグ全体で気候アクションの取り組みが加速する中、2025シーズンはクラブとしてもこれまで以上に環境施策に注力した一年となりました。新たな取り組みを数多く開始するとともに、現在は温室効果ガス排出量 (Scope1・2) の算定準備を進めており、来年度にはその結果を公表する予定です。

**方針:** セレッソ大阪は、クラブ活動による環境負荷を抑え、2040年までにカーボンニュートラルを達成します

CO<sub>2</sub> 排出削減量

CO<sub>2</sub>  
**1451.2** トン

プロジェクト参加者数

ファン・サポーター 選手・スタッフ・社員 (クラブ全体)  
**5,193** 人 **171** 人



## I. 再生可能エネルギー

セレッソ大阪では、スタジアムやクラブハウスなどクラブ関連施設を通じて、再生可能エネルギーの導入と普及を積極的に推進しています。

(クラブの全関連施設における再生可能エネルギーの導入率は2025年12月時点で約81%です)

### ヨドコウ桜スタジアム

太陽光パネル設置数(メインスタンド屋根) : 375枚

発電容量 : 約100kW

その他 : スタジアムにおける購入電力分についても、EnneGreen®の環境価値(再エネ証書)を付与することで実質100%再エネ化しています。

スタジアムでの発電電力は基本的にスタジアム(クラブ事務所、公式ショップ含む)で利用しており、使用しきれない余剰分は長居公園へ提供することで、地域全体での再生可能エネルギー利用にも寄与しています。

### クラブハウス(セレッソハウス)

太陽光パネル設置数(クラブハウス屋根) : 75枚

発電容量 : 約20kW

この設備で発電された電力は自家消費ではなく売電を行っており、地域社会における再生可能エネルギーの供給・拡大に貢献しています。

#### 実施インパクト

発電量

約 **125,540** kWh / 年

CO<sub>2</sub>排出削減量

約 **54.9** トン- CO<sub>2</sub> / 年

※2025年1月-12月実績



#### 実施インパクト

発電量

約 **27,763** kWh / 年

CO<sub>2</sub>排出削減量

約 **12** トン- CO<sub>2</sub> / 年

※2025年1月-12月実績



## II. エネルギー効率

セレッソ大阪では、主に「CO<sub>2</sub>ゼロチャレンジ」を通じて、スタジアムにおけるエネルギー消費の最適化と、排出されたCO<sub>2</sub>の実質ゼロ化に取り組んでいます。



### CO<sub>2</sub> ZERO CHALLENGE

#### CO<sub>2</sub>ゼロチャレンジとは？

省エネ機器の導入や「J-クレジット（※）」の活用により、ホームゲーム全試合のCO<sub>2</sub>排出を実質ゼロにする活動。2012年より継続的に実施中。また、2024シーズンからはパートナー企業と共に、来場者が環境に関するクイズに挑戦し、楽しみながらCO<sub>2</sub>削減への取り組み重要性を学ぶ参加型の「CO<sub>2</sub>ゼロチャレンジクイズ」を開始。ファン・サポーターの意識変容・行動変容を促しています。

#### パートナー企業

大阪ガス株式会社  
ヤンマーエネルギーシステム株式会社

#### スタジアムにおけるその他取り組み

コージェネレーションシステムの導入、集中リモコン管理の導入、人感センサーの導入など、エネルギー効率化によるCO<sub>2</sub>排出量の削減に積極的に取り組んでいます。（詳しくはサステナビリティ 取組事例のご紹介：ヨドコウ桜スタジアムをご覧ください）

#### 実施インパクト

CO<sub>2</sub>オフセット量

**1,330** トン/年

※2025年1月-12月実績

省エネ機器の導入によるCO<sub>2</sub>削減量

**0.5** トン/年

※2025年1月-12月実績

クイズ参加者数

**2,600** 名



※Jクレジット：省エネルギー機器の導入や再生可能エネルギーの利用によるCO<sub>2</sub>等の排出削減量などを「クレジット」として国が認証する制度です。

### Ⅲ. 環境負荷の少ない移動手段

セレッソ大阪では、ホームゲーム来場時や地域移動におけるCO<sub>2</sub>排出量削減を目的に、環境負荷の少ない移動手段の普及・利用促進に取り組んでいます。

#### シェアサイクル

2024年9月より、株式会社ドコモ・バイクシェアと連携し、セレッソ大阪特製ドレスガード付き自転車100台と、チームカラーであるピンクに彩られた自転車ラック5台を長居公園周辺に導入（順次拡大予定）。この取り組みは、スタジアム来場者の移動に伴うCO<sub>2</sub>排出（Scope3）の削減を目指すものであり、シェアサイクルを活用した脱炭素型の移動手段として、地域の二次交通・回遊性の向上にも寄与しています。

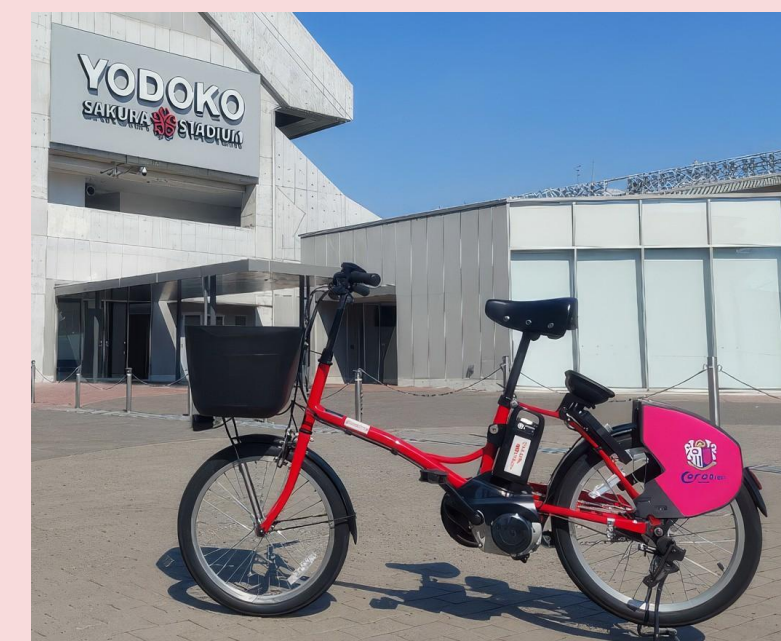
#### パートナー企業

株式会社ドコモ・バイクシェア

#### 来場手段の把握と環境にやさしい移動手段の推奨

公式ウェブサイトで公開している「はじめての観戦ガイド」では、環境にやさしい移動手段として公共交通機関（電車）の利用を推奨しています。スタジアム近隣には複数の駅があり、混雑緩和や快適な帰宅を目的に、複数のルートを掲載しています。

#### 実施インパクト



※上記100台導入したセレッソ大阪特別仕様様のデータ  
 ※実際に走行した距離を普通自動車で移動した場合と比較し算出  
 ※2025年1月-12月実績

#### 2025年来場手段アンケート結果（2025年12月8日-15日に JID保有者へ対し実施）

- ① 66.6% : 電車
- ② 18.0% : 自家用車（相乗り含む）
- ③ 10.0% : 自転車（シェアサイクル含む）
- ④ 3.4% : 徒歩
- ⑤ 1.0% : バス
- ⑥ 0.8% : その他
- ⑦ 0.7% : バイク
- ⑧ 0.3% : タクシー

※ クラブとしては左記①・③～⑤を推奨しており、②⑦の場合は相乗りを推奨

## IV. 使い捨てプラスチックの削減・廃止

セレッソ大阪では、スタジアムや地域で発生するプラスチックごみ削減を目的に、使用済みペットボトルの水平リサイクルに取り組んでいます。

# Bottle To Bottle

### Bottle to Bottle プロジェクト

使用済みペットボトルを回収し、新たなペットボトルとして再生する「水平リサイクル」の取り組みがBottle to Bottle プロジェクトです。キリンビバレッジ株式会社と連携し、2024シーズンより全ホームゲームで実施しており、2025シーズンも継続しました。回収したペットボトルの袋数および重量は、各試合ごとに活動実績としてクラブ公式サイト（※）にて報告しています。

#### パートナー企業

キリンビバレッジ株式会社

※参考例：2025年12月6日開催の横浜FC戦後の報告ニュース



### 実施インパクト

回収量

約 **5,220** kg  
(ペットボトル約10,400本分)

CO<sub>2</sub>排出削減量

約 **17** トン- CO<sub>2</sub> /年  
※2025年1月-12月実績



## V. ゴミの削減管理-1

セレッソ大阪では、スタジアムや地域で発生するごみの削減と資源循環を推進しています。

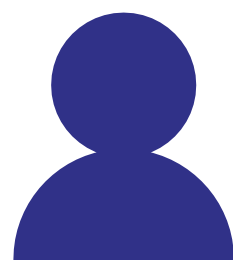
### バイオコンポスターを用いた「食品廃棄物の資源循環リサイクル」

スタジアム場外の飲食店「セレッソバル」で発生する食品廃棄物を、ヤンマー製のバイオコンポスター「YC100」で堆肥化。そこで生成された堆肥は、長居公園内の体験型農園「長居わくわくファーム」での作物栽培に再利用し、子どもたちと一緒に野菜の収穫体験も実施しております。

#### パートナー企業

ヤンマーホールディングス株式会社

#### コンポスター導入後の店舗コメント



#### スタッフのコメント

バイオコンポスターの導入をきっかけにごみの分別やごみを出さない、食材を無駄にしない工夫をする意識があがってきました。営業終了までに食材ロスを意識して調理することで、全体の廃棄量が徐々に減っています。今後も営業の中で出来る取り組みを継続していきたいと考えています。



回収投入



食品廃棄物

バイオコンポスター

堆肥

長居わくわくファーム

#### 実施インパクト

投入量

約 **28** kg

収穫体験に参加した子どもの数

**20** 名  
(2025年8/19,29実績)



## V. ゴミの削減管理-2

セレッソ大阪では、食品ロス削減と地域の助け合いの2つを同時に実現しています。

### フードドライブ

2024シーズンより、ホームゲーム全試合でフードドライブを継続して実施しています。家庭で余った食品を集め、大阪市・堺市社会福祉協議会を通じて支援を届けることで、食品ロス削減だけでなく、食料を必要としている家庭への支援にもなるよう、地域の助け合いを推進しています。これからも本活動を継続することで、食品ロス削減と地域間での助け合いの取り組みを、前進させていきたいと考えています。

### 実施インパクト

回収量

1,335点 / 160,245kg

提供施設数

5施設



## VI. プラントベース／低炭素食品-1

セレソ大阪では、スタジアム周辺の飲食からも環境負荷の低減に取り組んでいます。「セレソバル」を通じて、プラスチック削減やサステナブルな食材提供など、環境にやさしい選択を広げています。

### セレソバルでサステナビリティ取り組みを“見える化”

2025年10月25日(土)より、スタジアムグルメ セレソバルにおいて、サステナビリティへの取り組み状況を“見える化”するため、各店舗にサステナビリティへの取り組み状況がわかる看板を掲示することを開始。

使用・提供状況	基準	表示方法
<b>使い捨てプラスチックの使用</b> 化石資源由来のプラスチックの使用を廃止し、リサイクル素材や生分解性プラスチックへの切り替えを推進しているか	100%達成	★★★
	50%達成	★★
	1アイテム・商品のみ対応	★
	未対応	—
<b>持続可能な方法で調達された食品・食材</b> 地元産・有機栽培・認証食材など、環境負荷の少ない食材を積極的に採用しているか	100%達成	★★★
	50%達成	★★
	1アイテム・商品のみ対応	★
	未対応	—
<b>プラントベース／低炭素食品</b> 植物由来や低炭素の食材を活用したメニューを展開し、健康的かつ環境に配慮した食の選択肢を提供しているか（素材1品ではなく、1つのメニューとしてプラントベース／低炭素食品を提供）	100%達成	★★★
	50%達成	★★
	1アイテム・商品のみ対応	★
	未対応	—



## VI. プラントベース／低炭素食品-2

セレッソ大阪では、スタジアム周辺の飲食からも環境負荷の低減に取り組んでいます。  
VIPラウンジ「CLUB CERZO」でも、サステナブルな食材提供など、環境にやさしいと美味しいの両立を目指しています。

### 地産地消を推進～ 大阪産（もん）を使用した料理を提供開始

2024シーズンより、プラチナラウンジおよびエキサイティングラウンジにて、「大阪産（もん）」※を使用した料理の提供を開始しています。セレッソ大阪では今後も大阪府との各種協働を通じて、地域の魅力発信ならびに経済活性化に貢献しています。

※大阪産（もん）・・・大阪府域で栽培・生産される農産物、畜産物、林産物、水産物と、それらを原材料として使用した加工品のこと



## Ⅶ. 生物多様性-1

セレッソ大阪では、海と陸の生物多様性の維持・再生に取り組んでいます。本活動を通じ、自然と人が共に生きるまちを目指しています。

### LTO活動

日本財団と連携した全国的な環境活動「LEADS TO THE OCEAN (LTO)」に2016年より参加。ホームゲーム開催日を中心に、ファン・サポーターや地域住民とともにスタジアム周辺やホームタウン各地で清掃活動を行い、新たなアプローチで海の環境問題（生態系維持）に取り組んでいます。セレッソ大阪は2025年、参加するJリーグクラブの中で平均参加人数第2位に輝きました。

### 実施インパクト

実施回数

**22**回

参加者数

約**2,100**人

※2025年1月-12月実績

2016-2024年  
過去累計実施回数／参加者数

**117**回／約**8,600**人

Jリーグ2025  
シーズン年間ランキング

**第2**位

※2025年1月-12月年間の平均参加人数



## Ⅶ. 生物多様性-2

セレッソ大阪では、海と陸の生物多様性の維持・再生に取り組んでいます。本活動を通じ、自然と人が共に生きるまちを目指しています。

### 「セレッソの森」プロジェクト

クラブハウスの周囲をチームの象徴である桜の苗木を植栽し、市民やチームの誇りとなる名所「セレッソの森」を創造するというプロジェクトを2012年に開始し、以降継続管理を行っております。

### 食害から“桜”を守ろう！堺市環境局「堺クビアカ防除大作戦」

桜の樹木などのバラ科植物を食害する特定外来生物、クビアカツヤカミキリの被害を阻止するため、令和7年度から5か年を重点期間（集中防除3年+効果検証2年）として防除を進める「堺クビアカ防除大作戦」へ対し、クラブとしても啓発活動に協力を開始し、25年7月には堺市と共同で駆除イベントを実施しました。

#### 実施インパクト

植えた苗木の本数

**123**本

※2013年の舞洲へのクラブハウス移転以降の実績



#### 実施インパクト

クビアカハンター新規登録者数

**381**人

イベント参加者数（7月開催）

**45**人

クビアカ駆除数

**8,577**匹



## VIII. 教育-1

セレッソ大阪では、次世代の子どもたちから選手・スタッフまで、セレッソファミリー一体でサステナビリティ教育を推進しています。

### セレッソ大阪およびセレッソ大阪ヤンマーレディースの選手・フロントスタッフを対象としたサステナビリティ研修

本研修では、サステナビリティおよびSDGsの基本的な考え方をはじめ、気候変動がスポーツ界・Jリーグにもたらす影響、そしてセレッソ大阪としてのサステナビリティ方針や具体的な取り組みについて説明しました。研修の締めくくりとして、選手一人ひとりが自身の行動につなげるための宣言を行いました。

### 実施インパクト

#### 参加者

男子トップチーム全選手	28名
女子トップチーム全選手	23名
フロントスタッフ	32名



### 研修後の選手コメント



#### 田中駿汰選手

「これまであまり意識できていなかった選手も多かったと思います。小さなことからコツコツと取り組んでいけたら」



#### 香川 真司選手

「温暖化や環境問題と向き合い、僕たちにできることにチャレンジしていくことが大切だと思いました」

尚、男子トップチームの選手については、2025年2月にキャンプ地でも実施しており、今年度2度目の研修となりました。

### 選手のSDGs宣言

研修後、各選手が自身で取り組みたいと考えるSDGsの目標を選定し、“SDGs宣言”を実施。その後、いくつかの取り組みは実際の行動へと繋がっている。

西尾選手のSDGs宣言をもとに実施した、HANASAKA授業はP.41で説明しています



## VIII. 教育-2

セレッソ大阪では、次世代の子どもたちから選手・スタッフまで、セレッソファミリー一体でサステナビリティ教育を推進しています。

### サステナビリティ経営検定

セレッソ大阪の全社員（株式会社セレッソ大阪、一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブ）が、サステナビリティに関する検定を受験し、合格しました。全社員がサステナビリティの重要性を理解し、実践するための基盤を築くとともに、受講によって得た知識をクラブの事業活動や競技運営に積極的に活かしてまいります。

#### サステナビリティに関する検定について

受講した検定は、サステナ経営検定4級[SDGsの基礎]オンラインテスト（有料）となります。  
すべてのビジネスパーソン、学生や生徒がSDGsの理解度をチェックできるオンラインテストです。  
<https://sdgs.quizgenerator.net/>

### 実施インパクト

合格者

**88**名（全社員！）



## VIII. 教育-3

セレッソ大阪では、次世代の子どもたちから選手・スタッフまで、セレッソファミリー一体でサステナビリティ教育を推進しています。

### サステナ×サッカー教室 Supported by YANMAR

2025年6月21日（土）、ヨドコウ桜スタジアムにて、小学4年生～6年生を対象としたサッカー教室、サステナトークの二部構成の取り組みを実施しました。

#### パートナー企業

ヤンマーホールディングス株式会社

### 環境教育授業 supported by YANMAR

2025年11月19日（水）、丸橋アンバサダーの出身地である住之江区の咲州みなみ小中一貫校で、セレッソ大阪の「環境教育授業 supported by YANMAR」を実施しました。

#### パートナー企業

ヤンマーホールディングス株式会社

#### 実施インパクト

参加者数

20名



#### 実施インパクト

参加者数

27名



## 「健康・福祉」の取り組み事例・インパクト

### 2025シーズンの振り返り

「健康・福祉」のテーマでは、サッカー教室を中心とした取り組みを継続的に展開してきました。近年は「Be Supporters!」の活動をアップデートしており、2025シーズンからは、日本ハム株式会社と協働で開始した「FOOD COUNTER」や、選手による企画シートなど新たな取り組みも加わりました。これにより、健康・福祉に関する活動の幅は、さらに広がっています。



方針: セレッソ大阪は、スポーツを通じて、すべての世代の健康づくりに寄与し、心身の成長を支えます

各活動への参加者数

**3,816人**

## サッカー教室

地域の子どもたちを主な対象に、シーズン通しサッカー教室を実施。サッカーを楽しみながら、体を動かす喜びや仲間と関わる力を育み、心身の健康づくりにもつなげています。

### 実施インパクト

参加回数

**15**回

参加者数

**1,102**人



## ボール寄贈&運動教室

地域の小学校へのサッカーボール寄贈および運動プログラムを実施しています。

### 実施インパクト

参加回数

**2**回

参加者数

**140**人

ボールの寄付数

**5,500**人



## レディースサッカークリニック

初心者の女性を対象としたサッカークリニックの開催や、教室への参加を行いました。

### 実施インパクト

参加回数

**21**回

参加者数

**1,341**人



## ウォーキングフットボール体験会

2025年10月19日(日)、第52回堺まつりにて「大阪府×大阪成蹊大学×セレッソ大阪ウォーキングフットボール体験会」を実施。“歩いて行うサッカー”として、高齢者をはじめ幅広い世代の健康づくりや交流促進に寄与する活動となっています。

### 実施インパクト

参加回数

**3**回

参加者数

**620**人





## 「FOOD COUNTER」プロジェクト

2025シーズンより、日本ハム株式会社とFOOD COUNTERを実施。FOOD COUNTER（フードカウンター）とは、ホームゲームの観客動員数に応じて食品支援を行う社会貢献事業。対象試合は2025明治安田J1リーグ セレッソ大阪ホームゲーム 全19試合です。未来を担う子どもたちの支援を目的に、セレッソ大阪にとって特別な背番号である「8」をベースに、リーグ戦ホームゲームの総来場者数に応じた商品・サービスを×8円分の日本ハム製品と、セレッソ大阪主催試合の観戦チケット等を、一般社団法人大阪市児童福祉施設連盟と堺市社会福祉協議会の両団体を通じて、大阪市と堺市の児童養護施設へと寄贈しています。

### 実施インパクト

日本ハム 製品提供支援額

**2,835,440**円分

セレッソ大阪 観戦チケット等提供支援額

**429,000**円分

連携施設数

**16**施設（大阪市12施設、堺市4施設）



## 「Be Supporters! (ビーサポーターズ)」

— 高齢者が“支える側”としてクラブに関わる新しい共創モデル —

### 【概要】

Be Supporters! は、サントリーウエルネス株式会社とJリーグが協働で推進している取り組みです。セレッソ大阪では、オフィシャルパートナーである株式会社あぷりと施設連携し、高齢者がクラブ活動に主体的に参加できる多様な機会を創出しています。

### 【主な取り組み内容 (2025年)】

#### 「Be Supporters! デー」の開催

手作りミサンガの寄贈、応援フラッグ制作などの制作活動。スタジアム運営・サステナビリティパークでのボランティアとしての参加機会の提供。アンバサダーによる福祉施設訪問を実施。これらの活動は、日常生活では支えられる立場にある高齢者が、“支える側”としてクラブと関わる機会を創出するものであり、社会とのつながり・役割意識・心身の健康維持・生きがいづくりに寄与しています。



### 実施インパクト

実施回数

**10**回

参加者数

**580**人

※2025年1月-12月実績

連携施設数

**12**施設

集めた応援メッセージの数

**287**件



## 選手企画シート（畠中選手）

2025シーズンの後半より、セレッソ大阪では選手自身が主体となって企画・実施する選手発案型社会貢献プロジェクトを開始。その一環として、畠中稔之輔選手による「畠中企画シート」を実施しました。児童養護施設で暮らす子どもたちをホームゲームに招待し、スタジアム観戦や選手との交流を通じて、サッカーの魅力とともに前向きなエネルギーを届けることが、この企画の狙い・目的です。

本企画は、単なる観戦体験の提供に留まらず、社会的に支援を必要とする子どもたちに“スタジアムという居場所”を感じてもらうことを目的としています。普段触れる機会の少ないプロサッカーの世界を体験し、ピッチで戦う選手の姿や会場の一体感を肌で感じることで、子どもたちの自信や夢、希望の芽を育む機会にもつながっています。

一例として畠中選手を挙げましたが、ほかの選手でも同様の活動を実施しており、2026年以降も継続予定です。

### 実施インパクト

招待人数

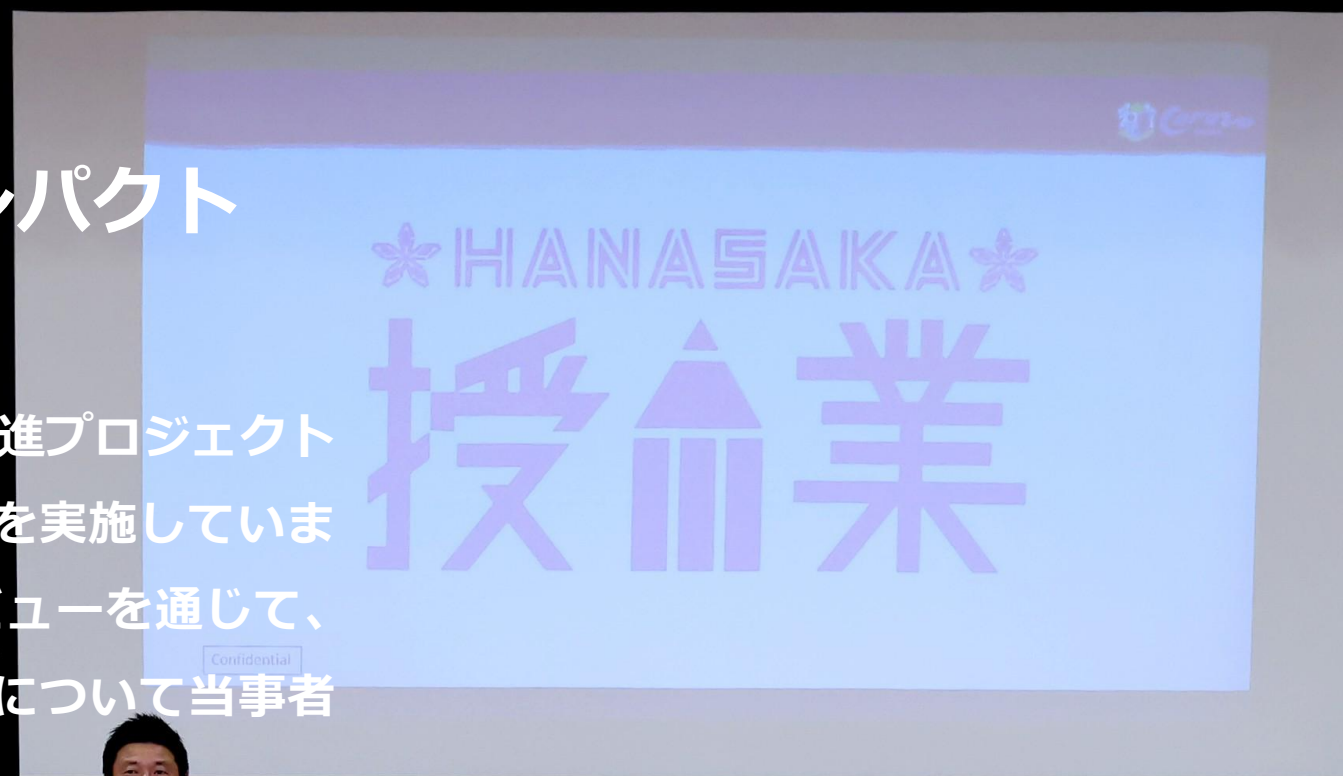
**33**人



## 「教育」の取り組み事例・インパクト

### 2025シーズンの振り返り

「教育」のテーマでは、HANASAKA授業や読書推進プロジェクトなど、地域の子どもたちの学びを支える取り組みを実施しています。2025シーズンは、インターン生へのインタビューを通じて、活動を通じた学びや成長、クラブの社会的な役割について当事者の言葉で語っていただきました。



方針: セレッソ大阪は、未来を担う次世代の人材育成に貢献します

人を、未来を、咲かせよう。

各活動への参加者数

8,296人

各活動の連携学校数

380校

## HANASAKA授業

2025年より開始した「HANASAKA授業」は、クラブとヤンマーホールディングスが連携して実施する教育プログラムです。選手が学校を訪問し、自身の経験をもとに“夢を持つこと・挑戦し続けること”の大切さを子どもたちに伝えています。2025年はキム・ジンヒョン選手、西尾隆矢選手、登里享平選手、喜田陽選手が地域の小中学校で授業を行い、児童・生徒と交流しました。また後日には、学校で選手と一緒に考えた「夢」や「挑戦する気持ち」を、今度はスタジアムで体感していただくことを目的に、授業に参加した児童・生徒とその保護者の皆さまを対象とした、ホームゲームへの招待企画も実施しました。

### HANASAKAについて

ヤンマーらしさの象徴で、“人の可能性を信じ、挑戦を後押しする”という創業者の精神やビジョンの根底にあったヤンマーの価値観を「HANASAKA（ハナサカ）」と呼んでいます。ヤンマーの事業領域を超え、スポーツ・文化などあらゆる領域で挑戦する人たちの後押しし、「HANASAKA」の輪を世界へ広げることで、人と未来を育んでいきます。

#### パートナー企業

ヤンマーホールディングス株式会社

#### 参加者の声

西尾選手にはこれからもサッカーをがんばってほしいと思うし、私もこれから自分の目標に向かってチャレンジし、努力し続けようと思いました。

叶えたからこそその楽しみやうれしみがよくわかりました。私もチャレンジして夢を見つけないなと思いました。

今回の授業を受けて、これからもたくさんの挑戦をしていき、身近な人への感謝も忘れずにしようと思いました。

### 実施インパクト

実施回数

4回

参加者数

503人



## 読書推進プロジェクト

子どもの読書習慣の醸成、読解力の向上、そして豊かな心の育成を目的として、大阪市（および堺市）と連携した「読書手帳プロジェクト」を2019年から実施しています。本プロジェクトでは、市内の小学生全員にオリジナルの「読書手帳」を配布し、選手がおすすめる本の紹介や、読後の感想を書ける欄を設けることで、子どもたちが主体的に読書に取り組む仕組みを整えています。

さらに、読書冊数に応じてシールやクラブグッズを進呈する「読書チャレンジ」を実施し、楽しみながら継続的に本に触れられる環境を提供しています。

### 参加者の声

前まで本が苦手だったけど読書手帳のおかげで本が好きになりました。

読書手帳のおかげで本にさらに興味を持てるようになってよかった。面白い本に出会い、探るのが楽しくなりした。

凄くわかりやすく、毎回書く時が楽しみでした。来年もお願いします。これからも続けてほしいです!!

## 実施インパクト

手帳配布枚数

160,000冊

連携学校数

376校

特典配布数

7,694枚

※本取り組みは「令和4年度子供の読書活動優秀実践団体 文部科学大臣表彰」も受賞しています



## Jリーグ新人研修

Jリーグ新人研修の一環として、上林豪選手・古山兼悟選手らが、障がいのある子どもたちのスポーツ・文化活動を支援する大阪市の施設「ボ・ドーム」を訪問し、サッカー交流を行いました。ボールゲームやデモンストレーション、シュートチャレンジを通じて、子どもたちが挑戦する喜びや学びを得るとともに、選手自身も“教える立場”を経験することで、コミュニケーション力や伝える力、スポーツの社会的価値を再認識する教育的な機会となりました。

### 実施インパクト

参加者数

**15**人



## 交通安全教室

大阪府・天王寺警察署など行政機関と連携し、地域住民の安全意識向上に向けた交通安全・防犯啓発活動に取り組んでいます。

7月にはガンバ大阪戦で「夏の交通事故防止運動」啓発ブースや、ヘルメット着用実験を通じて来場者の交通安全教育を実施し、9月には天王寺公園で行われた交通安全防犯フェスティバルに参加して地域の子どもたちへ防犯・安全指導を行うなど、クラブとして地域の安全・安心づくりに貢献する活動を展開しました。

## 学生インターン

「地域に根差したクラブ」を目指す取り組みの一環として、SDGs・社会貢献活動に関わる学生インターンシッププログラムを実施しています。本プログラムは、クラブスタッフの一員として実務を経験することで、学生が地域課題やスポーツの社会的価値を学びながら成長できる機会を提供するものです。

インターン生は、ホームゲームにおけるSDGsブースの企画立案、運営、SNS告知、地域行政イベントでのブース運営サポートや記録写真撮影、クラブのプロモーション活動への参加、各イベントレポートの作成など、多岐にわたる業務に携わります。実践的なプロジェクトに参加しながら、自らのアイデアを形にする経験や、スポーツクラブの社会的役割を体感できる点が特徴です。

### 実施インパクト

実施回数

1回

参加者数

60名



### 実施インパクト

参加者数

24名



## インターン生 特別インタビュー

「地域とセレッソの“つながり”の中で見えた、スポーツクラブの価値」



びわこ成蹊スポーツ大学  
スポーツ学部スポーツ学科  
奥村 彩乃さん

### — インターンへ応募したきっかけを教えてください

以前、大学で開催されたイベントで、セレッソ大阪をはじめ複数のプロスポーツチームが参加するサミット形式の交流会に参加したことがきっかけです。そこでセレッソ大阪の仕事に強く興味を持ち、クラブの公式HPで長期インターンの募集を見つけて応募しました。元々は広報やマーケティングに興味がありましたが、まずはクラブが地域でどのような活動を行い、どのように社会と関わっているかを理解したいと思い、ホームタウングループでのインターンに応募しました。

### — 現在、具体的にどのような取り組みに関わり、これまでにどのような学びがありましたか

主にホームタウングループのサステナビリティ活動に携わっており、外国にルーツを持つ子ども向けサッカー教室\*1やBe Supporters! \*2など、本当に多岐に渡る取り組みに参加しています。なかでも外国にルーツを持つ子ども向けサッカー教室では、ミーティング段階から関わらせていただき、参加者へどのような価値を届けたいのか、関係者の皆さんが大切にしている想いを直接伺うことが出来ました。

地域という枠組みの中で作り上げられるイベントを、主催者側として体験したのは初めてで、とても貴重な学びとなりました。また、サステナビリティパークで実施するイベントでは、企画立案から事前準備、当日の運営まで一連のプロセスを担当することもあります。告知文をどう書けば人が集まるのか、どのステークホルダーを巻き込むべきか、行政やボランティアとの連携の仕方、コストの抑え方など、限られた条件下で、イベントを形にしていく経験は、現場ならではの大きな学びとなっています。

### — そのような体験を通じて、インターンへ参加する前と後で、自身の考えや価値観へ影響したことはありますか

インターンへ参加する前は、「プロスポーツクラブ＝広報やチケットなどの興行が中心」というイメージが強かったのですが、サステナビリティ活動を通じ、その枠を超えた“社会的な価値”を強く実感しました。行政や地域の皆さんと協働する中で、クラブの魅力はチームの勝敗だけではなく、地域の活動を広げ、深め、人と地域をつなぐ役割もあるのだと気づきました。地域に根差した取り組みを続けることで、ファン・サポーターも増えていくのかなど。プロスポーツクラブには、このような“社会的な価値”もあるのだという新しい視点を得られたことで、自分の中のクラブへのイメージや価値観は大きく変わりました。

### — 最後に、今後応募するインターン生へのメッセージなどあれば

インターン先を探す際には他のクラブも調べていましたが、実際に働いてみて、セレッソ大阪はサステナビリティ活動に特に力を入れているクラブだと実感しています。また、プロスポーツの現場で企画から運営まで一連の流れを担当できる経験はとても貴重で、インターンでしか得られない学びも多くあります。

自分のやりたいことを提案し、実行できるフィールドがあるので、主体性を持って行動したい人にとっても向いている環境だと思います。

### — 有難うございました

\*1：外国にルーツを持つ子ども向けサッカー教室はP.50参照

\*2：Be Supporters! はP.36を参照

## 「地域活性」の取り組み事例・インパクト

### 2025シーズンの振り返り

「地域活性」のテーマでは、スポーツを通じた豊かなまちづくりを目指し、スタジアム内外で地域とつながる取り組みを展開しています。クラブがハブとなり、自治体や地域団体と連携しながら、地域活性化につながる活動を推進。多くの地域住民とクラブが触れ合う機会を創出しています。

方針: セレッソ大阪は、地域の魅力を高め、人々が集まり・つながることで、地域の活性化に貢献します

各活動への参加者数

**9,690**人

## ランドセルカバー配布

セレッソ大阪は小学校新入学児童の交通安全を守るため、反射材付きランドセルカバーを配布し、登下校時の小学生の視認性向上と事故防止を図る取り組みを、2018年に大阪市東住吉区で開始しました。この活動は2019年から大阪市内全小学校の新入学児童へ拡大し、現在もホームゲームで来場した子どもや保護者に向けて配布イベントも実施しています。

### 実施インパクト

配布枚数

**20,000**枚

配布学校数

**288**校

配布枚数

**121,500**枚

※2018-2024年過去累計

配布学校数

**1,743**校

※2018-2024年過去累計



## 団地を起点とした地域の賑わい創出

2025シーズンより独立行政法人都市再生機構（以下、UR都市機構）とSDGsパートナーとして連携し、地域活性化を目的とした取り組みを継続的に展開しています。8月には、団地に暮らす子どもたちの“夏の居場所づくり”として「DANCHIつながる一む～夏休みは団地で楽しもう！～」を開催し、酒本アンバサダーによる「夢授業」やキックターゲット体験を通じて、子どもたちの学びと挑戦を後押しする機会を創出しました。続く9月には、再整備を予定する金剛中央公園を舞台にした「Park Day 2025」にて、ウォーキングフットボール体験会を実施。公園活用のモデルケースとなる健康増進、賑わい創出を目的とし、子どもから高齢者まで誰もが安全に楽しめるスポーツの場を提供。これらの一連の取り組みは、UR都市機構との包括連携に基づく“地域活性化プロジェクト”の第一弾・第二弾として位置づけられ、「子どもの居場所づくり」「健康的な交流機会の創出」「地域コミュニティの再構築」といった価値の実現に寄与しています。

### パートナー企業（SDGsパートナー）

独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）

### 実施インパクト

参加者数

230人



## 地域応援デー

和泉市・岸和田市・泉大津市・八尾市など近隣自治体と連携し、住民招待や特産品PR、地域団体によるパフォーマンスなどを行う「地域応援デー」を実施しています。スタジアムを地域交流の場とすることで、自治体の魅力発信や住民参加を促し、クラブと地域が一体となる機会を創出しています。

## 地域イベント参加

地域のにぎわいづくりと住民との交流促進を目的に、ヤンマースタジアム長居で開催された「第3回スタジアムぼんおどり（スタぼん）」、ヨドコウ桜スタジアムでの夏祭り企画「セレフェス2025」や大阪ミナミで開催された「みなみフェス2025」など、地域のお祭り・フェスに積極的に参加しています。アーティストライブ、縁日、キックターゲット、ステージ出演といった体験型コンテンツを通じて、多くの地域住民がクラブと触れ合う機会を創出しています。

### 実施インパクト

実施回数

20回

参加者数

3,264人

連携市町村数

20市町村



### 実施インパクト

実施回数

49回

参加者数

6196人



## 「DE&I」の取り組み事例・インパクト

### 2025シーズンの振り返り

「DE&I」のテーマでは、「BLOOM SMILE PROJECT」をはじめ、多様な人々がサッカーを楽しめる機会づくりに取り組んでいます。プレーの場に加え、スタジアムや地域において、誰もが安心して試合観戦やイベントに参加できる環境づくりにも力を入れ、多様性が尊重される機会の創出を進めています。

**方針:** セレッソ大阪は、あらゆる人が尊重され、互いに支え合う共生社会の実現に貢献します

各活動への参加者数

**2,980**人

# BLOOM SMILE ROOM

## 「BLOOM SMILE PROJECT」

「BLOOM SMILE PROJECT」は、セレッソ大阪がSDGsパートナーである株式会社 Any Kids Place、塩野義製薬株式会社と連携して進める“子どもの未来支援”の取り組みです。

疾患や障がいの有無に関わらず、誰もが安心してスポーツを楽しめる環境づくりを目指し、ホームゲームで利用できる感覚過敏配慮スペース「BLOOM SMILE ROOM (旧：センサリールーム)」の運用と、発達に課題のある子どもたちを対象としたサッカー教室・マルチスポーツ体験会を柱としています。

スタジアム観戦を家族で安心して楽しめる機会の提供や、一人ひとりの特性に寄り添った運動体験を通じて、子どもたちが「笑顔・自信・可能性」を育める時間を創出するとともに、親や兄弟も含めた家族の新たな体験や気づきを生む場にもなっています。

「BLOOM SMILE PROJECT 🌸」ドキュメンタリー動画はこちらから  
<https://youtu.be/fVZy2uBdmo8>

### 実施インパクト

#### サッカー教室

実施回数

5回

参加者数

363人

#### BLOOM SMILE ROOM

利用者数

10人



## 障がいのある子どもたちのための『はな+ (プラス) 』

セレソ大阪サッカースクールでは、障がいのあるお子さまを対象に、親子で安心して参加できるサッカー教室「はな+ (プラス)」を開催しています。サッカーを通じて、子どもたちの「笑顔・自信・可能性」を育み、つながりや成長、喜びを少しずつ積み重ねていく時間を育んでいます。

## 外国にルーツを持つ子ども向けサッカー教室

2025年9月23日、ヨドコウ桜スタジアムにて、外国にルーツを持つ子どもたちを対象とした特別イベントを開催しました。本イベントは、言語や文化の違いから地域社会との接点が限られがちな大阪在住の外国籍の子どもたちに、サッカーを通じて学びと交流の機会を提供するものです。当日はセレソ大阪のスクール生も参加し、交流を深めました。

大阪市によると、市内には多様な国や地域の背景を持つ子どもたちが数多く暮らしており、言語や文化の違いから地域社会との接点が限られるケースも少なくありません。外国にルーツを持つ子どもたちは、言語や学習の壁や地域での孤立といった課題に直面しており、これは個人のみならず地域全体の共生にも影響を及ぼすと考えられています。そこでセレソ大阪は、サッカークラブとしての役割を生かし、共通言語である“サッカー”を通じて交流の場を提供しました。グラウンドでの交流ゲームやスタジアムツアー、食事会を実施し、子どもたちに多文化共生を体感するきっかけを届けました。

### 実施インパクト

実施回数

7回

参加者数

88人



### 実施インパクト

参加者数

55人



## 多様な観戦体験（常設）

多様な人々（年齢・国籍・障がい・性別関係なく）の観戦機会の向上の為、PXXの「BLOOM SMILE ROOM（旧：センサリールーム）」に加え、お子様連れのお客様も安心してご来場いただけるようなエリアを始めとする様々な席種を運営・提供しています。

## 多様な観戦体験（SPOT企画）

上記常設の席種に加え、外国人の方や高齢者、発達に課題のある子どもなど、多様な人々が安心して試合を観戦できるような取り組みも行っております。

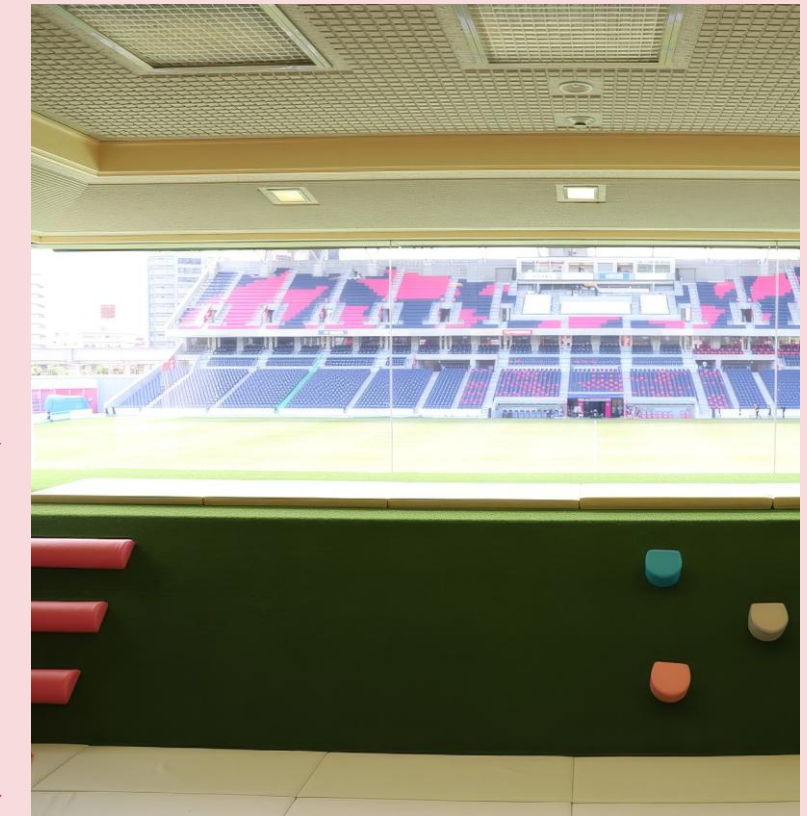
### 実施インパクト

多様な席の種類

5種類

各利用者数

キッズプレイルーム	290人
キッズマルチルーム	1,324人
託児ルーム	52人
車いす席	574人



### 実施インパクト

対象者

外国人 3,846人

## DE&I講義

12/3(水)セレッソ大阪のサステナビリティパートナーであるヤンマーのサステナビリティ推進部が「DE&I講義」を、セレッソ大阪ヤンマーレディースのトップチーム選手たちを対象に実施しました。本講義はワークショップ形式で開催され、選手とヤンマー社員が一緒に対話しながら、多様性について理解を深めました。

### パートナー企業

ヤンマーホールディングス株式会社

## インクルーシブフェスタ

12/20(土)、WE ACTION DAYの取り組みの一環として、「セレッソ大阪ヤンマーレディース インクルーシブフェスタ」を開催。当日は、スタジアム来場者に多様性について考えていただくきっかけを提供することを目的に、パラスポーツ等の体験プログラムを実施し、「障がい」や「多様性」に対する理解を深める取り組みを行いました。この活動は普段とは異なる状況での運動をする体験を通して、障がいがある方の視点からものを感じる、1つのきっかけとして開催されました。

### 実施インパクト

参加者数

30人



### 実施インパクト

参加者数

190人

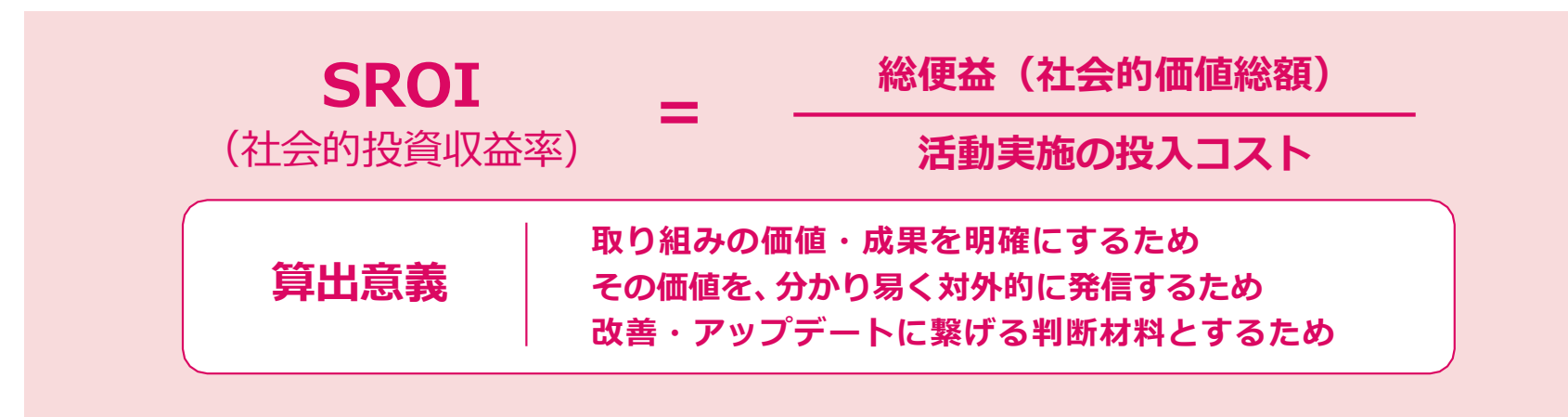


## 事例のインパクトを試算する「SROI」とは？

ここまでご紹介した事例は社会的に有意義な取り組みですが、昨今は事例の与えるインパクトを金銭的価値に換算して評価する動きが注目を集めています。この試算のフレームワークがSROI (Social Return on Investment : 社会的投資収益率) です。SROIは、社会・環境・経済の各側面における費用と便益を整理し、さまざまな活動が生み出す社会的インパクトを可視化することで、その社会的価値を適切に把握することを目指しています。

次項では本資料P.41でご紹介した「HANASAKA授業」の社会的な価値を金額換算するためのモデル・ロジックを一部ご紹介しています。

施策ごとに短期・中期・長期でどのような影響を及ぼすかを整理し、アンケートなどを取りながら経済的な価値換算を行うことで「ただ社会にとって良いこと」ではなく、明確な根拠をもとに取り組みの社会的な重要性・金銭的価値を伝えるようになっていくことが、私たちの狙いです。



01 セレッソ大阪の考えるサステナビリティ
02 ミッション実現のためのロードマップ
03 各テーマにおける取り組み事例とインパクト
04 サステナビリティパートナーと描く未来
05 振り返りと今後の展望

**HANASAKA授業**

2025年より開始した「HANASAKA授業」は、クラブとヤンマーホールディングスが連携して実施する教育プログラムです。選手が学校を訪問し、自身の経験をもとに「夢を持つこと・挑戦し続けること」の大切さを子どもたちに伝えていきます。2025年はキム・ジョンヒョン選手、西尾隆矢選手、豊里 享平選手が地域の小中学校で授業を行い、児童・生徒と交流しました。また後日には、学校で選手と一緒に考えた「夢」や「挑戦する気持ち」を、今度はスタジアムで体感していただくことを目的に、授業に参加した児童・生徒とその保護者の皆さまを対象とした、ホームゲームへの招待企画も実施しました。

**HANASAKAについて**

ヤンマーらしさの象徴で、“人の可能性を信じ、挑戦を後押しする”という創業者の精神やビジョンの根底にあったヤンマーの価値観を「HANASAKA (ハナサカ)」と呼んでいます。ヤンマーの事業領域を超え、スポーツ・文化などあらゆる領域で挑戦する人たちを後押しし、「HANASAKA」の輪を世界へ広げることで、人と未来を育んでいきます。

**パートナー企業**

ヤンマーホールディングス株式会社

**参加者の声**

西尾選手にはこれからもサッカーをがんばってほしいと思うし、私もこれから自分の目標に向かってチャレンジし、努力し続けようと思いました。

叶えたからこそその楽しみやうれしみがよくわかりました。私もチャレンジして夢を見つけたいなと思いました。

今回の授業を受けて、これからもたくさんの挑戦をしていき、身近な人への感謝も忘れずに行いたいと思います。

**実施インパクト**

実施回数	参加者数
4回	503人



Impact Report 2025
39

# SROI の算出方法の例 (「HANASAKA 授業」 ロジックモデル)

凡例

社会価値

経済価値

※貨幣価値換算想定箇所をピンク文字



# 「HANASAKA 授業」 社会価値算定レポート

## ゴール

「HANASAKA授業」を通じて、夢や目標を持ち、それに向かって挑戦していくことの大切さを理解し、自身の将来を主体性をもって考え、行動に移し、未来を切り拓いていくことのできる子どもが増えている状態

## インプット：活動と投入コスト

## アウトカム：初期成果（意識・行動変容）

## インパクト

### 【コンテンツ内容】

西尾隆矢選手が自ら希望し、母校で実現した「HANASAKA授業」。サステナビリティパートナーであるヤンマーホールディングス株式会社と協働で実施し、「チャレンジすること」や「チャレンジする人を応援すること」の大切さについて伝える教育プログラムであり、地域とともに次世代育成を推進する取り組み。

### 【参加者】

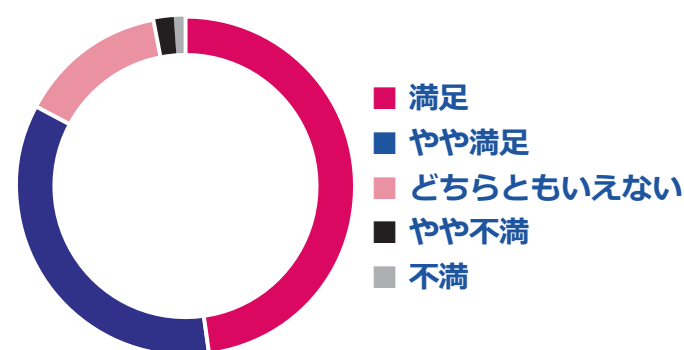
小中学生総勢約 **250** 名



総費用 **221.6**万円

アウトカム：子ども／保護者

### ①満足度



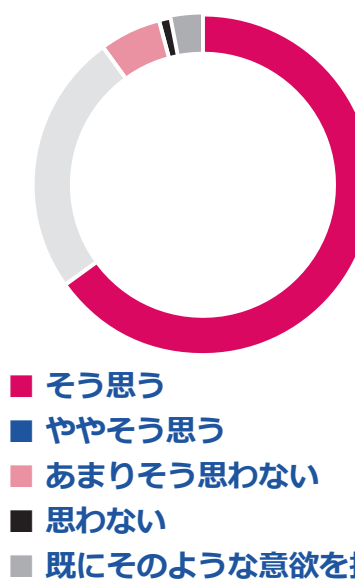
### ②興味・関心度



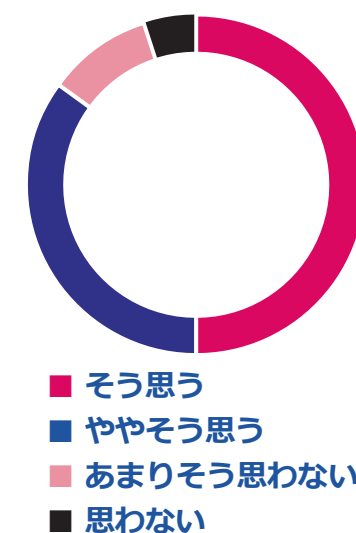
### ③夢や目標を持つことの重要性理解度



### ④夢に対する継続意欲



### ⑤家族や周囲への伝播度



※上記 % 表記について、上位 2 つの回答比率を記載  
※②③④の下線設問は、本イベント効果外の結果を把握する為

### 社会的価値総額：

**2,574.6**万円

費用：221万円

### SROI(社会的投資収益率)：

**11.6**

### 統括

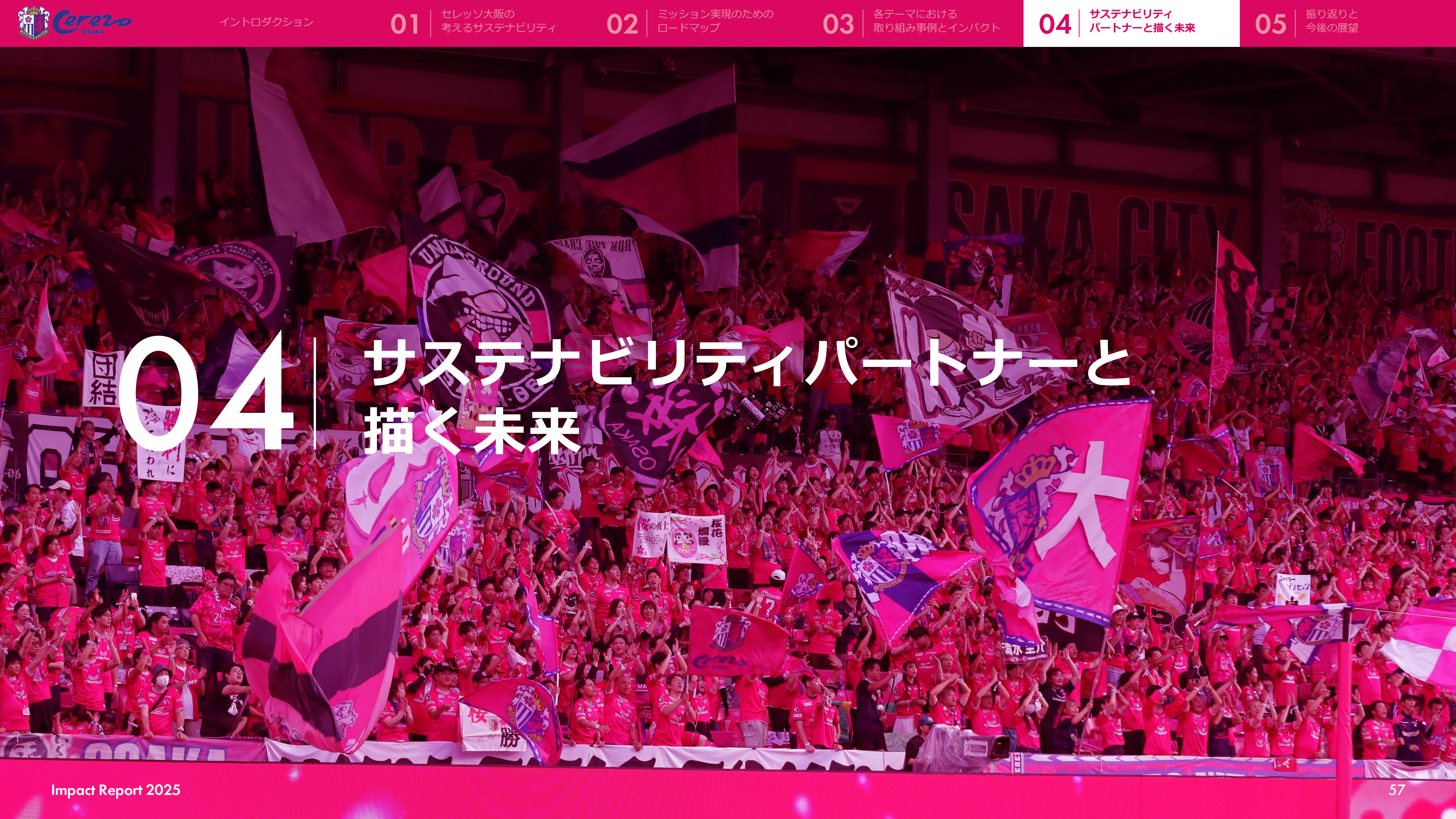
西尾選手の母校の小中学生が対象だった中では、満足度や理解度などの数値として良い結果となっている。

コストにおいても、外部委託などは無く基本的に自クラブのリソースで対応していることから、必要最低限に既に抑えられている。

本イベントからの派生として、後日招待イベントも行うといったところまで繋がられており、クラブとしてのエンゲージメント向上にも目に見える形で寄与できている。

一方、全ての質問共通として、最高評価の回答（5段階の1番上）ではない回答も一定多い為、今後の伸びしろとしてイベントをブラッシュアップしていければと感じる。

情報発信や横展開という観点からも、今後は行政との連携も行っていきたい。



# 04 | サステナビリティパートナーと 描く未来

## ヤンマー特別インタビュー（1/2）

### 「未来を創る共創モデル～ヤンマーが描くサステナビリティの挑戦～」



ヤンマーホールディングス株式会社  
取締役  
サステナビリティ推進部長（CSuO）  
白藤 万理子氏

#### — 今回、セレッソ大阪の“サステナビリティパートナー”へ就任した背景について教えてください

ヤンマーとしては、これまでもセレッソ大阪のトップパートナーとして長年にわたり、CO<sub>2</sub>ゼロチャレンジをはじめとする様々な取り組みを共に推進してきました。今回、セレッソ大阪が持続可能な社会の実現を目指して新たに設置した「サステナビリティパートナー」へ就任した背景としましては、セレッソ大阪が定めるサステナビリティポリシー「SAKURA SUSTAINABILITY」へ共感し、持続可能な社会の実現に向けた活動全体を包括的に支援したいと考えたからです。

#### — ヤンマーが掲げるサステナビリティ全体の戦略についても教えていただけますか

ヤンマーは、「A SUSTAINABLE FUTURE –テクノロジーで新しい豊かさへ。–」をパーパスに掲げています。サステナビリティという言葉が表す範囲は広いですが、ヤンマーらしいサステナビリティとは“人と自然の豊かさ”の両立を実現することです。その実現に向けて、グループ横断の目標を設定し、達成に向けた施策を推進しています。“自然”への取り組みとして、2022年から「YANMAR GREEN CHALLENGE 2050」の目標を設定し、環境負荷フリー・GHGフリーの企業活動を推進しています。“人”への取り組みとして、「Diversity for Yanmar」のポリシーを設定し、『いきいき、ワクワク、SMILE』をモットーに、健康で生き生きと働きやすい職場づくりを基盤として、一人ひとりを尊重し、新たなことにチャレンジできる組織づくりを進めています。また、事業活動はもちろんのこと、スポーツや文化、地域に根差した活動を通じて、次の世代を支え、喜びを分かち合える豊かな社会の実現に貢献していきたいと考えています。

#### — その中で、セレッソ大阪との連携をどのように考えられているのでしょうか

サステナビリティ活動を起点とする共創と社会課題の解決に注力していきたいと考えています。地域に根差し、様々なステークホルダーの皆様とつながるセレッソ大阪との連携を通じて、サステナビリティ活動を推進し、地域社会への貢献を深めていきたいと考えております。

## ヤンマー特別インタビュー（2/2）

### 「未来を創る共創モデル～ヤンマーが描くサステナビリティの挑戦～」

— 具体的にはどのような取り組みを推進されているのでしょうか —

2025年度には、次世代を担う子どもたちへの学びの機会の提供として、夢を持つこと、また挑戦し続けることの大切さを考えてもらう「HANASAKA授業」や、サッカー教室に加えて“人”と“自然”を題材とした学びの機会を提供する「サステナ×サッカー教室」などに取り組みました。また、DE&I講義を行い、セレッソ大阪ヤンマーレディースの選手とヤンマー社員が多様性について考えるワークショップも実施しました。セレッソ大阪のホームゲームでは、サステナビリティパークが設置され、CO2ゼロチャレンジブースを出店しています。さらに、ヤンマーのテクノロジーを活用して、スタジアム場外の飲食店で発生する食品廃棄物をバイオコンポスター「YC100」で処理し、たい肥として生成する取り組みも開始し、食品廃棄物の資源循環リサイクルを推進しています。

— これからセレッソ大阪とは、どのようなチャレンジを実施していきたいですか —

これからセレッソ大阪と共に挑戦したいのは、“スポーツを起点とした社会課題解決モデル”を大阪で実装していくことです。そのためには行政・クラブ・企業・地域が横につながり、それぞれの強みを生かすことで、教育・食・エネルギー・循環型社会など複合的なテーマに対して大きなインパクトを生み出せると考えています。

既存パートナー企業の皆様との連携もさらに深めたいですし、大阪には多様な産業が集積していますので、そこに新しい共感の輪を広げ、地域全体で未来の価値を創る取り組みに挑戦していきたいと考えています。

セレッソ大阪は“地域を巻き込む力”を持つ存在だからこそ、ヤンマーとしても長期的な視点で、未来につながる挑戦を共に加速していきたいと思っています。

— 有難うございました —



HANASAKA 授業



ヤンマーレディース DE&I講義



サステナ × サッカー教室



バイオコンポスターを活用した堆肥化



# 05 | 振り返りと 今後の展望

## 2025 シーズンの振り返り、新シーズンへの展望 森島会長メッセージ

～ 変革期のいま、クラブの価値をともに高めていくために ～

2025シーズンを振り返ると、本レポートでご紹介した通り「環境」「健康・福祉」「教育」「地域活性」「DE&I」という5つのテーマのもとで、クラブとしての取り組みが着実に広がり、深まった一年だったと感じています。サステナビリティパートナーのヤンマー様をはじめとする、SDGsパートナー各社、行政・学校・NPOの皆さま、そしてファン・サポーターの皆さまとの共創によって、多くのプロジェクトが“単発のイベント”から“社会課題を解決するための継続的な活動”へと進化してきております。この場をお借りして、あらためて心より御礼申し上げます。

一方で、私たちの挑戦はまだ道半ばです。2026年以降、Jリーグは「百年構想リーグ」を挟んだシーズン移行という、大きな変革期を迎えます。試合日程やシーズン構造が変わっていく中で、クラブ経営の在り方やファン・サポーターとの関係づくりも、これまで以上に創意工夫が求められます。そのような変化の時代だからこそ、セレッソ大阪は“サステナビリティを軸にしたクラブづくり”をより一層加速させていきたいと考えています。

また、環境分野では、Jリーグ全体として新たな環境指標を導入し、Sport Positive Leaguesへの参画を通じて、リーグ横断での取り組みも本格化していきます。セレッソ大阪としても、スタジアムを中心に様々な環境テーマについて、これまで以上に具体的な目標と指標を掲げ、Jリーグをリードするクラブの一つとして結果を出していく覚悟です。

本インパクトレポートは、2025シーズンの取り組みを「現在地」として示すものであると同時に、これからの数年でどのような未来を皆さまと共に描いていくのか、その“約束”でもあります。サッカーの力を信じ、SAKURA SUSTAINABILITYを指針に、多様なステークホルダーの皆さまと手を携えながら、セレッソ大阪らしい花を咲かせていきたいと思っております。引き続き、温かいご支援とご参画を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



## セレッソ大阪とともに サステナビリティを推進するパートナーを募集しています

### サステナビリティパートナー

サステナビリティパートナーは、セレッソ大阪が定めるサステナビリティポリシー「SAKURA SUSTAINABILITY」に共感し、持続可能な社会の実現に向けた活動全体を包括的に支援いただく存在です。サステナブルな社会に貢献するヤンマーの想いに共感し、セレッソ大阪とヤンマーは、これからもスポーツの力を活用しながら、サステナブルな未来を築くためのアクションを共に進めてまいります。



### SDGsパートナー

SDGsパートナーは、セレッソ大阪の想いに共感し、サステナビリティ活動を共に実践するパートナー企業です。クラブの活動を支えるだけでなく、それぞれの強みを生かしながら、クラブとともに社会課題の解決に向けた取り組みを共創しています。





発行日 2026年4月

発行人 日置 貴之

発行所 株式会社セレッソ大阪  
〒546-0034 大阪府大阪市東住吉区長居公園 1-1  
<https://www.cerezo.jp/>

写真 セレッソ大阪

制作・編集 株式会社セレッソ大阪

制作協力 KPMG コンサルティング株式会社

本レポートは日本財団の助成を受けて作成しています

本書の無断複写複製（コピー）は、特定の場合を除き、著作権の侵害となります。



本レポートは日本財団の助成を受けて作成しています

Supported by  日本財団 THE NIPPON FOUNDATION